

【まちづくりの目標】人が行きかい、にぎわいあふれるまち

【政策】快適で暮らしやすい生活環境づくり

基本施策	No.	評価指標	指標の説明	種	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	内部評価		担当課
														評価	評価コメント（課題・今後の方向性等）	
(2402) 中心市街地の活性化	56	中心市街地の居住人口（社会増減数）	中心市街地の居住人口の社会増減数（転入者数－転出者数）の5年間（R3～7年度）の平均値。	目標値	人	-	-	-	1以上	1以上	1以上	1以上	1以上	⑥ 未達成	令和5年度単年度では、前年度と同程度の社会減となった。年代別で見ると、子育て世帯は転入超過となったが、主に進学や就職を行う年代の転出が多いことで、社会減となっている。また、計画期間における平均値もマイナスへと転じた。 今後は令和5年度に行った既存ストックのデータベース化を活かしたマッチングの促進や、街なか居住体験施設をより子育て世代に適した立地に移転することで、居住人口の増加を図っていく。加えて、中心市街地へのオフィス誘致など、働く場の確保という切り口で居住人口の増加を図る取組も検討していきたい。	まちなか未来創造課
				実績値(単年)	人	-	60	50	68	-63	-62					
				実績値(平均)	人				68	2.5	-19					
				達成率	-	-	-	達成	達成	未達成						
	57	中心市街地における歩行者・自転車通行量（平日）	当該年度の調査時点における中心市街地の主要10地点の歩行者・自転車通行量の合計。	目標値	人	-	-	-	20,100	20,300	20,500	20,700	20,900	② 概ね順調	令和5年度は、ほとんどの計測地点で通行量の増加が見られ、目標は未達成であるが、昨年度より通行量が増加となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響下からの回復傾向に加え、賑わい創出に係る各種事業の取組効果によるものと考ええる。 今後は、旧本庁舎・第二庁舎跡地活用に係る事業や鳥取城跡の復元整備等のハード事業の進捗による効果をソフト事業でも促進することで、通行量の増加を図りたい。	まちなか未来創造課
				実績値	人	-	19,113	15,707	16,489	15,370	17,297					
				達成率	%	-	-	-	82.0%	75.7%	84.4%					
	58	中心市街地における歩行者・自転車通行量（休日）	当該年度の調査時点における中心市街地の主要10地点の歩行者・自転車通行量の合計。	目標値	人	-	-	-	20,100	20,300	20,500	20,700	20,900	② 概ね順調	令和5年度は、ほとんどの計測地点で通行量の増加が見られ、目標は未達成であるが、昨年度より通行量が増加となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響下からの回復傾向に加え、賑わい創出に係る各種事業の取組効果によるものと考ええる。 今後は、旧本庁舎・第二庁舎跡地活用に係る事業や鳥取城跡の復元整備等のハード事業の進捗による効果をソフト事業でも促進することで、通行量の増加を図りたい。	まちなか未来創造課
				実績値	人	-	21,900	18,900	16,453	14,725	16,628					
				達成率	%	-	-	-	81.9%	72.5%	81.1%					